



橋本健一郎氏

五月前半は、中国人民銀行は、微調整を伴う稳健かつ安定的な金融政策を実施するなどを表明。四月の中国貿易黒字は一八四・五億ドルで

予想の一三九億ドルを上回る。中国・李首相、二〇一四年は七・五%の経済成長達成が可能と発言などのプラス材料もあつたが、四月の中国の新規人民元建て融資は七七四・七億元に減少。予想の八八〇〇億元を下回る。中国鉱工業生産、小売売上高が予想を下回ったこと、不動産販売の減少などが嫌気され工業用メタル弱含む。また中国の財政官僚が大規模な景気刺激策は講じないと発言したこと、米小売売上高が事前予想を下回ったこと。イエレン米FRB議長が昨今の米経済の好調さから金融引き締め策を前倒しにするのではないかとの見方が広がったことなどを嫌気し、LMEアルミニウム相場はDOWN。五月十五日時点で一・五二ドル(現物後場買い)と、月初価格から九・二ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、米利上げ観測が再燃。米アトランタ連銀総裁は年内に二回から三回の利上げが妥当と発言。サンフランシスコ連銀総裁も同調したことと、五月の独製造業PMI改定値は五二・一に下方修正、四月の五一・八からは上昇、五月のユーロ圏製造業PMI改定値は五一・五に据え置き、四月の五一・七から低下――などのプラス材料もあつたが、カナダの山火事やナイジニアの政情不安などを受けWTI原油が五〇・二二と昨年十月十二日以来の高水準となつたこと、ユーロ圏財相会合でギリシャへの一〇三億ユーロの追加融資が決まつたこと――などのプラス材料を受けてLMEアルミニウム相場はUP。六月一日現在でLME(現物後場)一・五四七ドルと、後半スタート価格から一九ドルUPしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTT)

一〇七・四五→一一・三三(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比九・七%減の六四万二、九〇一台であった。日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・六%増の二二万台、七五三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比九・七%増の八万二、三九八戸であった。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム

アルミ圧延品は、生産・出荷とも減少

橋本金属 橋本健一郎氏 リポート②

輸入は新地金が前年比一五・六%減の一三万八、四二九t、二次合金が三・四%減の八万八三五一t、スクラップが三一・一%減の五八六t、合金スクラップは六五・四%減の一三三七t。

■概況

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産、出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・七%減の一六万九、五五九t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四五%増の一六万四、五六九tであった。

■自動車生産

四月の四輪車生産台数は六四万三、九〇一台で、前年同月の七一万三、二四〇台に比べて六万九、三三九台(九・七%)の減少となり、二カ月ぶりに前年同月を下回つた。四月の車種別生産台数は、乗用車は五四万六、三九七台で四万五・八四七台(七・七%)の減少となり、二カ月ぶりのマイナス。トラックは八万八、三四二台で二〇、五六八台(一八・九%)の減少となり、一二カ月連続のマイナス。バスは九、一六二台で二、九二四台(二四・二%)の減少となり、五カ月連続のマイナス。

四月の国内需要は三三二万四、七四八台で、前年同月比一・六%の増加であつた。うち乗用車二六万九、二五一台で前年同月比二・二%の増加、トラック五万四、四三五台で同一・三%の減少、バス一、〇六二台で同一・二%の増加。

輸出は前年同月比二・八%の減少(実績)。

■自動車販売

四月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二二万三七五三台で前年比六・六%増。二カ月連続のプラス。うち乗用車七・三%増、貨物二・一%増、バス二・一%増。

■住宅着工戸数

平成二十八年四月の住宅着工戸数は八万二、三九八戸で、前年同月比で九・〇%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九・五万戸(前年比〇・一%増)となつた。

利用関係別みると、実数値では、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となつた。六面へ続く

(四面より続く)

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となっていたが、直近では四カ月連続での増加となつてきている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績

前年比四・五%増の六万四・五六九tと二カ月連続プラス。出荷は三%増の六万四・三九〇tと二カ月連続プラス。うち、出荷先別では、鋳物八%減、ダイカスト九%増、板六・二%減、押出七・七%減、鉄鋼一二・七%増、合金地金メークー二・四%増。

【アルミニウム圧延・押出品生産数】

○・七%減と二カ月連続マイナスの一六万九・五五九t。うち、板類は生産、出荷とも二カ月連続でマイナス(出荷は先月の二・七%減)。うち、板類は生産、出荷とも三カ月ぶりにマイナス(出荷は先月の一・一%増)。一・五%減へマイナスに転ず)。

【輸出】アルミニ新地金が前年比五九四・六%増の二六六t、二次合金が二五・九%増の一、七六四t、スクラップが一二%減の一千万○・九〇八t、アルミニ缶が二七・一%増の四、三四四t。

【見通し】

・自動車は生産が九・七%減。五月の国内販売台数が前年比六・六%増。生産が二カ月ぶりマイナス、販売が二カ月連続プラス。生産が再びマイナス。販売に至つては大幅増!某自動車メークーの燃費データ不正による影響が懸念される。

・住宅着工の動向については、平成二十六年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、前年同月比で横ばいの傾向となつていたが、直近では四カ月連続での増加となつてきている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミニウム・押出品生産数は二カ月連続マイナス。輸出も八カ月連続マイナス。

・アルミニウム一次合金・同合金地金等生産実績

自動車生産の減少を受けて減少。ただ、合金メークー向けへの出荷は増加。住宅着工の増加はあつたが、押出し向け出荷が七・七%減。

・輸出 内需の低迷を受けて大幅増加。特にアルミニ新地金が大幅増の五九四・六%増!

【スクランプ需給予想】

流通在庫は、G.W.明けから価格の下落が続いており、市中でることはないのではないか?最近の生産の減少受けて発生自体も減つており、ここ最近の輸出増を考えれば更に需給のひつ迫状態は続くであろう。

【価格・為替予想】

今月は、OPEC会議の内容及び米利上げに左右される。

原油に關しては、六月二日にOPEC会合が開催予定。ただマーケットの予測はサウジアラビアがイランの増産凍結なしに〇五ドルで推移するのではないか?

米利上げ観測に關してはG.七声明や日本P.E.Cでの合意はしない方針をだしており増産凍結の可能性は低いことから四〇・四五ドルで推移するのではないか?

米利上げ観測に關してはG.七声明や日本の消費税先延ばしから考えれば、六月の利上げのコンセンサスをG.七内で取つた可能性が高く、利上げがあるのでないか?

それらを踏まえた六月のアルミニ価格は、〇P.E.Cで増産凍結合意ができWTI原油が五〇ドル近辺で推移し、米国の利上げが先送りされた場合、五月高値の一一段高一、六五〇ドルを予測。いずれかの場合は一五五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、三月もう一段安値の一、五〇〇ドル。為替は六月の米利上げ観測によるドル高・円安はあるものの、G.七の流れを受けての介入がしにくい現状や追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないか。為替は新規材料難の中、米経済悪化を防ぐための米利上げ観測の後退や、G.二〇の流れを受けての介入がしにくい現状、追加的な金融緩和策が難しいことから円高が続くのではないか。それらを踏まえ予測は、上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、米利上げが先送りされた場合、一〇六円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などをを行い、米利上げが行われた場合、一一〇円を予測。

安と予測している。